燃える母校愛で
法政大学と法学部の
さらなる発展を！

第21号　2010年（平成22年）1月1日

法政大學 法学部同窓会報

発行所　法政大学法学部同窓会
発行人　金子　征史（同窓会会長）
編集人　佐伯　利昭（会報編集長）
事務局　〒101－0047
東京都千代田区内神田1－8－9号
福田ビル5F
TEL. 03 (5283) 7371
FAX. 03 (5283) 7455
E-mail:info@hosei-hogakubu-dosokai.jp

ザ・インタビュー⑬　株式会社角川映画取締役副会長　井上泰一氏

法政大学出身の誇りを持って世に！

映画「沈まぬ太陽」をご覧になった同窓生も多いかと思う。様々な外圧の中、この映画を完成させ、公開した角川映画株式会社副会長（作品完成時は代表取締役社長）井上泰一氏（43年度法律学科卒）を訪ね、学生時代のこと、これまでの歩みなどを話してもらった。（聞き手　会報編集長　佐伯利昭）

―本日はお忙しいところを、会報のインタビューにご協力いただきまして、ありがとうございます。まずはじめに井上副会長さんのご出身地からお聞かせください。

井上泰一副会長　埼玉県の旧大宮市ですね。今は合併して政令都市のさいたま市です。

―卒業後の大学とのかかわりは、どのようなものですか。

井上　遠藤ゼミOBの先輩、同輩、後輩の皆さんと、また法政出身の財界人クラブの皆さんとは、よくお付き合いをさせていただいております。遠藤ゼミ同窓会は　毎年十月の第一土曜日に開催され、毎年大盛況で、百名前後集まります。法政財界人クラブは年に二回ボワソナードタワーの上の階のホールに集まるのですが、講演と懇親会が開かれ、この間は東京消防庁の消防総監になった新井雄治さんの講演がありました。優秀な方が多くて……。

本当は航空工学を目指していた

―ところで、法政大学への入学のきっかけというのは何だったのでしょうか。

井上　僕より四つ上の高校の写真部の先輩が、政治学科卒業だったのですが、当時から可愛がってもらっていて「教科書でも何でもお前にあげるから法政に行け」と言われたのがきっかけです。僕自身は父親が国鉄の技術屋だったので、正直に言うと理科系に行きたかったのです。地方の大学を受けて、航空工学とかそちらの方面を目指していました。二年間は一応努力しましたが、それでも英語が全くだめで、理科系は断念して縁あって、法政に入りました。

―では、法学部を選んだというのは、先輩の影響が大きかったということですね。

井上　そうですね。今から考えると、だいたい勉強をしなかったですから。

―いえいえ、そんなことはないでしょう。

井上　ちょうど学校が荒れているところだったし、パイトばかりやっていた時代もありました。それに先輩が教科書だけでなく、自分で取ったノートなども全部くれたので、試験も勉強をしなくても楽でした。

学生時代から角川に

―ゼミとかサークルはやっていらっしゃったのですか。

井上　ええ。ちょっと遠藤先生のゼミを受けていましたけどね。ただ、正直言うとあまり学校に行ってなかったんです。パイトばかりしていましたが、その中でも遠藤光男先生のゼミだけは、休まず受講させていただきました。角川と学校は五分くらいのところにありましたので、角川にいる時間がほとんどでした。

―では、学生時代からこちらにいらっしゃったということですか。

井上　そうです。卒業と同時に最終的に試験を受けて入社しました。

―厳しい試験だったのではないですか。

井上　あのころ他の出版社もから幾つかお誘いはあったのですが、当時角川春樹さんが、「おまえ、残れ」と。それから、今の角川歴彦会長も同じように言ってくれました。会長と僕と六か月違いで、彼は18年生まれで、僕は19年生まれですから、そんなことでこの会社に残ったのです。

―では、卒業のときには、迷わずこちらに決めたということですね。

井上　そうです。

―学生時代の思い出とか記憶に残っていることがあれば教えてください。

井上　やっぱり野球ですね。六大学野球で、僕は本当は長池さんなんかと年齢的には一緒になるのですが、二浪をしていますので、田淵、山本、富田の法政三羽ガラスの時代で、とにかく強くて、暇があれば神宮に行っていた記憶があります。だからどうしても校歌が染みついてしまっているのです。

―学校の方ではいかがですか。

井上　やっぱり遠藤先生のゼミです。伝統ある薬晴ゼミからと聞いています。

社内でえこひいきすることもできず……

―法政大学を卒業して思うことがあれば、お願いします。

井上　開放的ないい大学だったという感じを、今でも思っています。社会に出て四十年以上になるので、後輩も当社に入ってきます。今入って来る後輩は頭がいいですよ。彼らと会うと母校愛と言うのでしょうか、可愛くてたまらないのですが、立場上社内でえこひいきするわけにもいかず、難しいところです。法政の卒業生はみんな優秀ですよ。角川グループの中に結構いるのですが、みんな頑張ってくれていて、すごくうれしく思っています。

教科書の営業からオイルショックへ

―学生時代からこの会社で働いていたということですが、正社員になってからは、どのような道を歩まれたのでしょうか。

井上　まず都内の書店への営業でした。それと当時は高校の国漢系と社会系の教科書も発行していたので、その教科書と一緒に国語辞典、漢和辞典を高校の先生に対面で売りに行くというセールスを、昭和48年までやっていました。

そして48年に「第一次オイルショック」がありまして、出版物は紙の製品ですから、とにかく紙を確保しなくてはいけないということで、急遽資材を調達する部署に移りました。そこに一年と十一か月いましたが、当時の責任者の専務から「おまえは一年十一カ月で、十年分の経験をしたな」と言われました。朝から晩まで、いや夜中まで車を走らせて資材を動かしていましたが、それでも足りなくなってしまう大変な時代でした。

―大変なご苦労があったことがわかりますが、営業からその部署に配属された理由は何だったのでしょうか。

井上　当時私は、車の運転ができました。あのころはまだ運転免許証を持っている人というのは、そんなに多くなかったんです。そういう優遇性の中で、抜擢というか、この仕事を任されました。自分はそれが今も生きていますし、いい経験をしたと思っています。

そして映画づくりへ

―その後に変化があったとお聞きしますが。

井上　はい。創業者である先代角川源義さんが亡くなって、二代目の社長に角川春樹さんが就かれました。そこで僕は秘書となりました。それが昭和50年11月です。今と違ってまだまだ小さい会社でしたので、秘書と言っても、兼務として宣伝部のテレビ、ラジオとのイベントの担当責任者もやっていました。そうした経験から、翌年「角川春樹事務所」という映画の製作会社の立ち上げに参加して、翌年に「犬神家の一族」を第一作として、世に送ったのです。

このコピー　覚えていますか

―犬神家の一族は私も見せて頂きました。

井上　それから「人間の証明」「野性の証明」「戦国自衛隊」「復活の日」と続き、その後若者向けの「セーラー服と機関銃」とか「探偵物語」が大ヒットして行きました。角川は出版と映像というメディアミックスのはしりだったんですね。そこから非常に順調に広がって、出版物もよくなるし、映画のほうも見ていただいた通りです。当時、映画業界が非常に不況の時代でしたから、そういう面では脚光を浴びました。ですから、コピーで、覚えてる人がいるかもしれませんが、「読んでから見るか、見てから読むか」というようなコピーが流行したり、「週刊誌を閉じなさい、テレビをきなさい」とか、「好きです。日本語角川文庫」など、一大ブームになりました。

そんな流れの中で、七年近くを、秘書兼宣伝部兼映画作りの三点を、角川書店と角川春樹事務所でやっていた、自分にとっては三十代の一番脂の乗っている時代で、お忙しい毎日でしたが、楽しい時代でした。

―何か、お忙しい姿が目に浮かぶようです。

井上　それから昭和56年の5月かな。今度は、また自分自身がもう一度営業に戻りたいということで、九州営業所長として営業に戻りました。そのころ、まだまだ角川は雑誌の発行点数が少なかったのですけど、『ザ・テレビジョン』という週間のテレビ誌を出したのです。これは東京、関西、東海そして九州とエリアごとに順次発行されて、特に第四弾として九州版の発行があり、その営業活動をしていましたが、三年半でまた東京に戻されました。本当は、もっといたかったのですがね。何しろ一国一城、いろいろできるじゃないですか。

―やはり本社に必要とされていたわけですね。

井上　40歳になるちょっと前に、今度は以前に自分が立ち上げに参加した角川春樹事務所の担当役員になり、この時から映画の開発に専任で取り組むことになりました。角川春樹事務所の取締役営業部長を四年やったところで、平成元年に実は事情があって一度角川を離れました。

―角川に復帰されたのはいつ何ですか。

井上　三年ちょっとレコード会社を中心とする映像をやってる会社にお世話になりました。その後、丁度同時期に角川グループから独立して誕生した、メディアワークスに世話になることになりました。この会社はゲーム雑誌やライトノベルズ系の小説、漫画本を出版する会社で、ここで営業と宣伝、広告の三部門を担当し、取締役となり一年後に常務になり九年半いました。

そして常務の時に、もう一度角川の営業を見てくれということで、また呼び戻されました。

―角川に戻られたときの雰囲気はいかがでしたか。

井上　皆さんから見ると「あれ、あいつは」と。普通は戻ってやるやつなんかあまりいないのにと思われるんですけど、たまたま運と縁があってといいましょうか。57歳ぐらいのときなんですかね。あと何年かで60歳だから、60歳までメディアワークスで頑張ろうというのが本当の気持ちだったのですが、今の角川歴彦会長が社長時代に、もう一度営業にて入れを、ということで、所帯も大きくなっていたところの、営業を見る常務として角川に戻りました。

―そして、いよいよ社長となるわけですね。

井上　はい。角川書店の常務、専務を経て、社長になりました。その時、ベストセラー作家のダン・ブラウンの原作本「ダ・ヴィンチ・コード」が驚異的な早さで売れまくりました。当然公開された映画も大ヒットしました。その担当をし、大変嬉しい時期を過ごしていました。これで卒業かなと思っていたら約三年前に映画会社のほうの社長をやれという話がありまして、角川映画の社長に就き、最後の作品となったのが「沈まぬ太陽」というわけです。

この作品は、ずっと前から製作すると言ってきたわけですが、正直言って、作品作りにみんなが没頭できるならいいけれど、製作以外の外圧がいろいろあって、今だから言えますが非常に苦労しました。こういう社会派の映画を作る難しさっていうのはそういうところにあるのかなという、もう一度映画作りの中で経験したことでした。

昨年の10月24日の公開まで、本当に完成できるのかな、本当に公開できるのかと、幾つもの関門にあたり、苦労の連続だった作品なんです。それだけに、この作品が世に出たときは、一つの自分の役目は終わったかなというふうに思いました。

―ありがとうございます。

「沈まぬ太陽」完成までの一コマ一コマが目に浮かぶようです。

最後に、後輩に対して、アドバイスなどあれば、ぜひお願いします。

井上　法政大学出身ということに誇りをもって欲しいと思います。今、いろいろな業界の中で諸先輩方が活躍しています。法政の自由さの中から育んだ自分というものに自信を持って、世に出て欲しいです。オレンジカラーのよさをどんどんアピールして、そういう卒業生が増えることで、後輩たちも続いてくれるでしょう。

もしその気持ちを失いかけた時には、校歌を思い出し再び誇りを持って世に羽ばたいてください。

―ありがとうございました。

取材を通して、井上副会長の仕事にかける思いが、ひしひしと伝わってきました。特に「沈まぬ太陽」完成までの話は、限られた紙面で、一部しか紹介できなかったのが、とても残念です。今年の総会には、ぜひ講演をいただきたいと、インタビュアーとして考えました。

法政大学法学部同窓会
ホームページ
のご紹介
http://hosei－hogakubu－dosokai.jp

食事の価値観

留学生スピーチコンテスト　王訳億

農（のう）を憫（あわれ）む　李紳
禾（いね）を鋤（す）いて日　午（ひ）に当（あた）る
汗は滴（したた）る　禾下（カカ）の土
誰（タレ）か知らん　盤中（バンチュウ）の飧（さん）
粒粒（リュウリュウ）皆（ミナ）辛苦（シンク）なるを

これは中国のみなさんが小学校の時に勉強した唐代の李紳の作で「憫農」（農を憫れむ）と題する詩です。中国のみなさんは皆知っているはずだと思いますが、日本のみなさんはこの詩の意味が分かりますか？この詩は簡単に日本語で説明すれば、「稲を鋤いていると、陽は真上にのぼる、汗は滴りおちる、稲の根もとの土の下、誰が分かろうか、茶碗の中のご飯の一粒一粒が、皆、こうした苦労のたまものであることを」という意味があります。食器の中のご飯、その一粒一粒が農夫の辛い労苦の結晶だと作者が言いたいのではないでしょうか。つまり、食料を大事にしなさいという意味もあります。

私は子供の頃、ご飯茶碗に米粒がへばりついていたりすると、必ず母に叱られたものです。「残しちゃ駄目だよ。一粒でも捨ててはいけない。もうちょっと丁寧に食べなさい」と母はいつもそう言ってくれました。だから、今の私にとって、食事の残し物は決して赦せない行為だと思います。しかし、私の彼はいつもご飯を二口残しています。ほんの少しのものですが。私は毎回それを見たら、必ず目の色を変えて怒ります。本当にもったいないなと思うわけです。

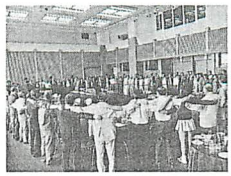
日本人は、昔の人は特に「食事を残してはいけない。残すことは失礼だ」という気持ちが強いので、無理にでも食べようとしてしまいます。食事を残す事に罪悪感を持っている日本人の多くは戦後の食料不足を知っている世代で食事を残すと罰があたると考えています。

でも、日本人はどんどん変わってきているのではないでしょうか？私は日本へ来てから、ずっと居酒屋でアルバイトしていました。

私のバイト先での経験ですが、女性がいる団体のお客さんが帰り片づける前にざっとお皿を見ると、彼女達は食事を大量に残していました。口に付けていないおかずや半分も減っていないご飯など、食べ物を残すなど言われて育ってきた私としては信じられない光景でした。いっぱい食べると恥ずかしいと思うのでしょうか？わざと残すのは良くないことだと思います。

世界中には食べたくても食べられない人がたくさんいるのに、本当に悲しい気持ちになりました。世界には100％の人に行き渡るだけの食料があって、それを20％の先進国の人たちが70％にあたる食料を食べているため、残りの30％の食料を途上国と呼ばれる80％の人たちが食べています。そのため、5秒に一人の人が飢餓で亡くなっていく現状があるそうです。現に、日本人の残す食事をカロリーに置き換えると7000万人の人が生きられる計算になるそうです。なんともショックな数字です。

皆さんの住んでいる日本は経済的にも食料にも恵まれています。でも豊かさゆえに、ありがとうや感謝をする気持ちが薄れて、いろいろなことが「当たり前」になってしまいました。食事を残さないとは強要はできませんが、ただ食物を粗末にする人に「有難み」をわかってほしいです。



平成21年度定期総会・懇親会の報告

平成二一年七月五日(日)法政大学市ヶ谷キャンパスボアソナードタワー二六階スカイホールにて、平成二一年度定期総会・懇親会が開催されました。従来は、七月の第二土曜日に開催していましたが、日曜日開催の会員の声がありましたので、今回は、日曜日開催と致しました。

午後一時から講会・懇親会は、懐かしい私学会館を予定しています。

平成二二

倉敷と大原孫三郎

昭和四十五年　法律学科卒　高島　禮子

JR山陽本線倉敷駅南口を出て、倉敷中央通を南に歩くこと10分余り。西洋の名画達に出逢える期待で胸が弾んでいる。何の変哲も無い地方都市の大通りを、美観地区入口に一歩入るや、あたりの景色は一変する。柳並木に白壁の土蔵が建ち並び、独特の雰囲気を醸し出している。大原美術館はそんな美観地区を入って程近い所に建っていた。ギリシャ神殿を思わせる本館の入口には、ロダンの彫刻「カレーの市民」と「洗礼者ヨハネ」が格調高く立ち並んでいる。

エル・グレコの「受胎告知」を初めとして、ゴーギャンやモネ、ルノワール、モディリアニ、ロートレック、ミレー、モローといった西洋近代絵画の巨匠達の作品が静かに出迎えてくれた。

倉敷といえば、大原美術館、大原美術館といえばすぐに倉敷の名前を連想するようにと、倉敷と大原美術館はセットになって、いつの時代も私達を魅了してくれる。

何故、倉敷に日本で初めての本格的西洋近代美術館があるのか？

江戸時代、幕府の直轄地として大いに繁栄した商都倉敷だが、目立った産業も無く活気が無くなっていた明治時代、豪商大原孝四郎は、高梁川流域で栽培されていた豊富な綿に注目し、1888（明治21）年、倉敷紡績所を設立した。2代目社長の孫三郎は倉敷市内だけでなく、大阪にも工場を新設、事業の拡大を図った。その後、人造絹糸の製造に成功し、倉敷紡績は目覚しい発展を遂げるのである。

少年時代、池田光政公の創った閑谷黌（旧閑谷学校）で学んだ孫三郎の理想は「富の社会還元」であった。

まだまだ貧しい人々が多く就学の機会の少なかった1902（明治35）年孫三郎は倉敷精思高等小学校の教室を借りて、昼間働いていて学校に通うことが出来ない人々の為に夜学を開き、自ら校長となって修身の授業を受け持ったのは、弱冠23歳の時であった。私立倉敷商業補修学校であり、現在の倉敷商業高校の前身である。

又、孫三郎は財団法人倉敷奨学会を作り、家が貧しくて進学出来ない人の為に学費の援助をした。

大原美術館の名画の蒐集に直接携わった著名な画家児島虎次郎も学費を受けた人々の一人である。

大原家は500ヘクタール（東京ドーム約107個分）の田畑を持ち、そこで多くの小作人が働いているのを見ながら育った孫三郎は早くから農業にも関心を持っていた。

1914（大正3）年農業研究所を作り、種や肥料、害虫、病気などの研究を行い、研究に役立つ本も沢山集められ、図書館も作られた。岡山県の代表的な果物である桃やぶどうの新しい品種がこの研究所からいている人達のみならず倉敷に住む全ての人が利用出来る倉紡中央病院を1923（大正12）年完成させる。

病院の中に温室の休憩室を作り、一年中植物や花を楽しめるようにした。壁やドアの色にも気を配り、病院内のあちこちに名画の複製が飾られ、当時珍しかったエレベータも設置した。又病院で働くスタッフの為に住居やプールも準備した。80年以上前にこのような病院を作った孫三郎の見識の高さに驚かされる。現在の倉敷中央病院である。

そして大原孫三郎の「富の社会還元」の集大成が1930（昭和5）年に作られた大原美術館であろう。清閑の地、閑谷学校で培われた少年の日の思い、理想を一生求め追い続けた大原孫三郎のお陰で今、こうして平成に生きる私達も間近に西洋の名画に触れることの出来る喜び。

さて私達は学びを通して、日常の生活を通して何を社会還元してゆくことが出来るだろうか？これからの私のテーマである。

・岡山に明君在りて学が立ち
・聖廟を守るが如く楷茂り
・学の殿堂命燃やして蝉時雨
・少年の夢を追いかけ赤トンボ
・石塀や理想遥けき学の道

（平成18年8月20日　閑谷学校にて）

傘寿の日に

鳥帽子田　栄治

終戦の翌年、昭和21年4月、私は富山県立高岡中学校から、川崎市木月の法政大学予科（旧制高校に相当）に入学、昭和24年3月予科を修了、法学部法律学科に進学しました。当時は、学校制度の改革期の最中で、法政大学も新制大学に改組され、結局、私達は後期の専門課程3年に編入という形になり、昭和26年3月に卒業しました。旧制のままでしたら、もう1年延びた筈でしたが、途中で、新制に切り替わったため1年短縮されたのです。

新制度になる前は、国公立私立併せて、大学は全国に20数校しかなかったと思いますが、新制度になった昭和24年以降、大学は飛躍的に増加、現在は4年制大学だけでも約550校あるそうです。そしてそれに伴う学生数も増加しています。

さて、私が法政大学に入学したころは、厳しい生活状況でしたが、それでも在学生の県人会での付き合いもよくありました。県人会では、佐伯弘治さん（流通経済大学学園長）や大島さん（明治安田生命会長）と一緒でした。

私が卒業した昭和26年はかなり厳しい就職難で、金融関係やマスコミ関係が人気が高かったのですが、それだけに、競争も激しかったようです。大学の校舎も戦災に遭い、ハード面の復興が急務だった法政大学の復興局長に就任された中川秀秋先生は法政2高の校長からその手腕を買われ就任されたと伺っていましたが、奇しくも、富山県出身の先生とわかり、何回か田園調布のご自宅にお伺いしてご指導を頂きました。

就職試験のときも、先生の口添えで、大阪市梅田同和火災海上保険会社を受験し、入社しました。しかし、長男であったため、家庭の事情で4年後、郷里に帰り、公立高校の教員になりました。普通、法学部卒業なら、社会科教員の免許状が取得できるのですが、社会科教員は飽和状態で、試験すら受けられない状態でしたが、当時は、英語教員が不足の時代、英語の免許があれば、受験可能ということでした。私は、幸いにも、法政大学予科を修了しているということで、高校2級普通免許状（英語）が付与され、受験できました。以後35年間、公立高校の英語科教員として勤務しました。退職時は、副校長でした。

他方、地域から保護司に推挙され、30歳から45年間、保護司活動に取り組みました。その地道な活動が評価され、平成15年、富山新聞社の第20回「富山風雪賞」を受賞、また、法務大臣表彰も頂きました。

私は、二人の息子に恵まれましたが、二人とも医師になりそれぞれ活躍しています。長男は精神科医で、現在、広島大学医学部大学院教授、次男は日本歯科大学非常勤講師、昭和大学歯学部兼任講師として、歯科医療の先端技術であるインプラント治療で頑張っています。私は、次男の医療法人敬彰会の理事相談役として、芝公園歯科・インプラントの雑用をこなしております。

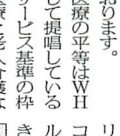
法政大学のOBは、確かに、他の大学のOB関係より結び付きというか交流が希薄だと、よく言われますが、そんな評価を払いのけるためにも、法政大学のPRを意識的に行い、法政ホーイの絆を少しでも深めて行きたいと思っています。

平成21年7月23日

超信

日中合弁医療事業の展望

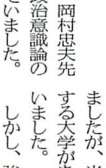
会社役員　馮　汝城



私は中国の広東省出身で、法政大学で学ばしてて本当に幸せです。常にそう思っております。我母校法政大学の更なる発展を心から期待致します。私は昭和三十六年法学部政治学科卒業、昭和三十八年大学院政治学修士課程修了致しました後、実業界を経て中華民国国民大会代表（国会議員）として政界に入り、おかげさまで無事任期満了と同時に実業界に復帰し、現在海運会社（本社香港）役員の傍ら両岸（中国大陸と台湾）の「平和」と「発展」の促進の為、長年努力を尽して参りましたが目下、中国大陸において医療事業を展開しております。

日本の医療の平等はWHOが一貫して提唱している国際医療サービス基準の枠の下に、医療と老人介護などに全力を尽して従事して来たことが中国の関係組織と協力して中国の医療事業を展開すれば、その道が広く展望がいいと私個人的に思っております。現在中国政府が取った医療市場開放政策とは、中外合弁の医療機構の設立を認める。ただし、出資比率は外国側は70%で、中国側は30%である。最低登録資本金二千万元人民元である。中外合弁病院に対する税収は、営業税＝売上高×5%、所得税＝利益×33%。上述の中国政府現在の中外医療機構に対する政策から見ると、料金制度は国際基準と同じレベルに持っていけるのがメリットになっている。もしコストをうまくコントロールできれば、利益を獲得できる空間が大きい。

国会の現場から



衆議院事務局委員部第五課課長補佐文部科学委員会担当　三橋善一郎

政権交代が現実のものとなり、最近、国会の中はこれまでとは違った緊張感に包まれています。

私は、平成4年に政治学科を卒業し、公務員試験を受けて国会職員となりました。

現在は、衆議院事務局の委員部という政治の最前線の部署に配属され、文部科学委員会を担当しています。

我が国の国会は委員会中心主義と言われますが、実際もその通りです。

委員会は、国会・政府・政党が交差する要衝となっており、委員長を補佐して妥当な委員会運営を行っていくことが委員会担当の使命です。

大学時代は、岡村忠夫先生の主催する政治意識論のゼミに所属していました。

ゼミでは、丸山真男の『現代政治の思想と行動』や、京極純一の『日本の政治』等の重厚な著作物を精読してレポートを作成・発表するのですが、岡村先生は、毎回全てのレポートに目を通した上で、評価とともに鋭いコメントを下さり、非常によい訓練になりました。

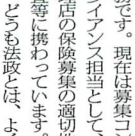
また、当時青山学院大学から来られていた石井光先生の刑事政策の授業に大変感銘を受け、数人のメンバーと共に自主ゼミを作り、自己をみつめる「内観」という貴重な実体験を得ることができました。

また、1年生から所属していた弁論部では、お互い切磋琢磨する中で、かけがえのない仲間達と出会いました。

政権交代によって国会の動き方も変わろうとしており、これまで以上に複眼的発想が問われそうですが、澄んだ心で物事を見て行きたいと思っています。

縁深き法政と私

三井住友海上メットライフ生命保険株式会社　菅野　卓也



福島県立福島高校を卒業して、84年に政治学科に入学しました。

「実は」の話をすると、担任から政治学科の推薦に応募しないかとの話がありましたが、当時は他に志望する大学があり断ってしまいました。

しかし、強いご縁があったようで、紆余曲折もしくは右往左往（笑）の後に、まさしくその政治学科に学ぶこととなりました。

上京し一人暮らしの住処とした幡ヶ谷のアパートから見える新宿の高層ビル群の夜景に都会を感じ、野球部優勝の恩恵での学食のトンカツ定食半額に懐の平安を得る田舎者の貧乏学生にとって毎日が刺激の連続でした。

ゼミは藤田省三先生の政治文化論のゼミでしたが、ビートルズの曲を聴いて、その時代背景を考察するなど政治学らしからぬユニークなアプローチに高揚感を覚えました。

授業の後に、新宿等で先生とご一緒することもしばしばで、映画・演劇等のサブカルチャーも含めた多岐なジャンルのお話に大いに薫陶を受けました。

文字通り、私の大好きな校歌の一節「良き師　良き友　集い結べり」を実践していた学生生活だったと懐かしく感じます。

在学中に行政書士試験に合格しましたが、保険会社に就職し、何回か転職したものの一貫して保険業界勤務です。現在は募集コンプライアンス担当として、代理店の保険募集の適切性監査等に携わっています。

どうも法政とは、よくよくの縁があり、北海道転勤でやむなく中退しましたが、93年に大学院MBAコース2期生として再び学生証を手にしました。

今でも、神宮球場の学生席に出没しますので、見かけたらお声かけください。一緒に肩を組んで、校歌を歌いましょう。

なりたい自分の姿を目標に

司法書士　池田亘子

大学時代、十年、二十年先のことは、かなり遠い未来のことのように感じていました。当時の私には今の自分の姿は想像できませんでした。

しかし、過ぎてしまえばあっという間で、時間は過去に対しては短く、未来に対しては長く感じるものかとも思います。

私は、二〇〇八年の秋、リーマンショックの最中に司法書士事務所を開設いたしました。

ちょうどバブルの頃に運良く銀行に就職できた私でしたが、多くの人々に出会い助けられ、色々なものに触れ、司法書士という職業を知り、目指し、今に至っております。日々の積み重ねが、今の自分に繋がっているかと思うと、流れた時間はかけがえのない、とても大切なものです。

事務所を開設したばかりの私には、学生の時のように未来の自分の姿がまだ見えていません。ただ、大学時代に感じた未来とは全く別物である未来とはまた別物です。神様は乗り越えられない壁は与えないと信じ、簡単には想像できない十年後、二十年後の自分の姿を楽しみに日々歩んでいきたいと思います。もちろん、なりたい自分の姿を目標にしながら。

全国（長崎）大会

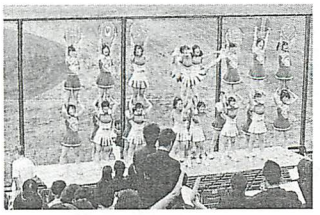
山田　綾子

「全国卒業生の集い」は異国情緒あふれる歴史とロマンの街、長崎で盛大に開催されました。十月十六日前夜祭のゴルフ大会、十七日は大会式典・講演会・懇親会、十八日の長崎観光と全国からの参加者はおおいに楽しみ交流を深める事が出来ました。開催関係者の皆様には深く感謝申し上げます。

十六日長崎空港に降りたら東京では考えられない暑さで気温二十四度。ホテルでクーラー使用。翌日の式典・講演会会場の長崎プリンスホテルの下見を長崎名物路面電車に乗り出掛けた。大浦天主堂下から乗り築町で乗り継ぎ券を買い茂里下車。二駅歩き宝町の懇親会会場も確認。二日目は大会式典迄時間があるので定期観光バス「長崎よかとこコース」で「長崎」の観光スポットをひとめぐり。長崎駅十時出発。ガイドさんの心地よい名所旧跡の案内を聞きながらバスは被爆五十周年事業として建設され、平成八年四月に開館した原爆資料館に着く。昭和二十八年八月九日十一時二分原爆は長崎市に投下。当時の長崎市人口は約二十四万人。原爆による被害者数はおよそ死者七万四千人、負傷者は七万五千人程と伺いました。修学旅行生徒も真剣に説明を聞いていましたが、戦争の恐ろしさと平和の尊さを強く感じた事と思います。平和公園、出島、孔子廟・中国博物館を見学。式典会場への時間も迫り途中で観光バスを降りプリックホールへ向かう。式典では岩部金吾大会会長の挨拶、山下実行委員長歓迎のご挨拶に続き長崎県知事・金子源二郎様、法政大学学長・増田壽男様、後援会副会長・大野和人様の方々からご祝辞を頂きました。次回開催地は「青森」と発表されました。記念講演は長崎の歴史と文化を話され、西洋・東洋の文化が融合した「和華蘭まち長崎」ですと長崎市長・田上富久氏代理の方のお話に納得しました。「プロ野球おもてうら」の江本猛紀氏講演はユーモアいっぱいの笑いに包まれたお話で旅の疲れも吹き飛びました。我らの「エモヤン」は若々しくダンディでした。懇親会は二胡演奏等のアトラクションを楽しみ、昨年の松山大会でお会いした皆さんと再会を喜び、美味しいお料理に楽しい会話で至福のひとときでした。

エクスカーションはハウステンボスに興味があったので「九十九島・佐世保・平戸の旅」に参加し九十九島を遊覧し、松浦資料館、平戸城、サビエル教会を見学。ホテルから眺めた海は静かで美しく何時までも眺めていたい風景でした。早朝ホテルを出発して海自資料館見学後、パスはハウステンボスへ。四日目はさすがに疲労困憊で主要な所だけ見学。展望台からの眺めは一望の価値ありでした飛行場へ行く人、電車に乗る人達とここでも「青森で又お会いしましょう」と別れを惜しみつつ帰途に着きました。

法大 対 慶大



9月27日（日）13時30分より神宮球場において法大対慶大との野球試合がありました。

当日は五明理事長をはじめ山田企画委員長など朝早くから現地球場に入り、入場券の準備や参加者の集合場所で待機をして下さいました。

皆さんも久しぶりの観戦に学生時代を思いだしながら胸踊らせて参加したようです。

いつもながら試合開始前はお互いの健闘を祈りエールの交換があり、試合が始まりました。

「春の王者」法大は初回に先制したものの、その後の好機に一本が出ず応援団並びにチアガールと共に一生懸命に声を枯らして応援しましたが及ばず惜しくも敗戦してしまいました。

どこからか「もう少し早くピッチャーを交代していればな～」とつぶやく声が聞こえました。

試合の勝ち負けもそれなりに大切ですが、ゲーム後の良き仲間との「ワイガヤ」で美味しい「お酒」が飲めるのは誠に嬉しいことです。

飲むほどに酔うほどに楽しく「懇談・懇親」をして元気をいただき、また「絆」を深めた「あっと言う間の二時間でした。

ある理事が時々終宴に唄う歌をこの原稿を書きながら飲みながら思い出し口ずさんでいました。

それは「きよ～お～も楽しく飲めるのは　五明理事長のお陰です　五明先生あり（ワイガヤ）　お客様（連盟）　ビール　ブラス他者　考え方（基本）　ありがとお～　綾ねえ～　山田さ～ん　よありがとう」

まだまだ、これから楽しい企画行事が年末年始に向けて盛り沢山のようです。

これからもきっときっと楽しい出会いがありますよ。

ぜひ同窓やご家族の皆様をお誘いして参加いたしましょう。

待ってま～す。

つい書きながら飲みすぎました、皆さん健康には意いたしましょう。

おおさき　みつお

【同窓会活動レポート】

法政大学法学部同窓会理事

堀　春男

9月の理事会の際、久し振りに恒例の懇親会後に某理事に誘われて二次会で飲み交わす機会がありました。そこで某理事がこんなことを漏らしておられました。「法律相談部に入っていて良かった」、何のことかよく分からなかったのですが、家に帰り、貰っていた機関誌「法律相談」の中の規約を見てその意味が判明いたしました。

規約の中には、「教授、先輩及び部員相互間の親睦をはかり、一層学問の探求を促進せしめ以って母校と本相談部の名誉を日本各地に顕揚する等に全力をあげ、この理想と目的を達成することを誓う」とありました。「法律相談部に入っていて良かった」と思いました。

現在、世代間の断絶傾向に加え経済不況が後押しする格好になって、中々、いろんな組織が纏まりにくくなっていますが、反面、日本の伝統や文化（良きセンス）が高く評価され、他国からは日本ブームが起こっている昨今、日本の良き伝統と文化が色濃く反映された法律相談部の部活の精神は、各種の組織運営にも役立つことと存じます。

木山顧問レジュメ

（企業から見た就職戦線）

2009年11月13日

企業からみた就職戦線

1　仕事とは

仕事＝①会社を立て、②自己表現を試み、③働人（社会）に役立つための知と知識を得る・方法。

成果＝能力×考え方×熱意

2　企業（人事部長）採用の重要ポイント

○「コミュニケーション能力」
○「論理構成力」＝説得力
○「責任性」（チャレンジ精神）
○「信頼性」
○「協調性」

特に、「コミュニケーション能力」は、「仕事相手との意思疎通力」であり、「信頼を獲得する能力」のことである。又、同内容云えば、「話し上手と聞き上手」能力で、特に「聞き上手」能力である。

それと同時に、「論理構成力」が重要視されている。「論理の構成力」は、「相手を説得する力」のことである。そのなかにはまざまな事実を積み上げて、そこからひとつの理論、仮説を見い出す作業が不可欠となる。大学での専門教育（ゼミや実験等を通じて）、鍛える事が出来る能力である。

最近の人事部長の重要視ポイント

特徴

○インプット能力＝大学の偏差値的能力で代替できるが、それが高いとでも、不可。

○アウトプット能力＝問題を解決する力、新しいものを創り出すアウトプット（結果）能力が必要。この2つは、あるレベル相関はあるが、ビジネスとしては、別物だ。

○情報収集力もあり、知的能力だけでは足りない。それを活かしていかに成果に結びつけう力があるかが問われている。

○実体に対応する能力　顧客ニーズをより早く捉え、中々見えてこないニーズに迫って立ちまるかどうかなくしいろんな情報をキャッチし、ニーズを掘り起こし、提案力がある能力。

○今の時代こそ、打たれ強い耐性のある学生（体育会系、あるいはマネージャー等）。

○ビジネスモデルの大転換期の今、意思はすぎる人、考えすぎる人は、いらない。「パイオニア精神に溢れた野武士タイプ」を望む。

○「面白そうだ……やってみたい」型学生には、興味ない。

○「学生時代に、目指もせず、そつなく通した学生は、社会に出てもそつなくやるが、会堂が求める「アウトプット」が無い。

結局問われるのが、「何をやって来たか」なのだ。

○面白そうだ感じること。

「大学4年間で、何を目標にしどのような手段を使って、何を学び社会に出て来たか」又「実現したかを考えながら克服して来たのか」。

○「分析」「実行」「アレンジ」は、どんな人脈を得る生き方をしたのか。

3　後輩に伝えたい私のメッセージ

（キーワード）

○国際感覚（メガバル）　○挑戦＝の高揚を・タイ乱社会
○新環境に対応　○自立・自由（ヤングアイ）社会

［人は4つのカテゴリー］
・チャレンジして成功する人。
・チャレンジして負けた人。
・チャレンジせず敗った人。
・何もせず、実績ない人

［人材とは］
・「人罪」
・「人在」
・「人材」
・「人財」

自分の長所（得手）を伸ばせ!!

法律相談会

8月29日、30日に、法政大学PRイベント『法政フェア』の一環として、宮城県仙台市にて無料法律相談会を開催致しました。両日とも仙台市民会館で行い、39件の相談を受付けました。1件1件真剣に取り組んで回答し、アンケートでも好評価を頂くことが出来ました。

開催にあたりご支援いただきました方々に、この場をお借りして、深く御礼申し上げます。より相談者の方の手助けとなるよう、部員一同精進して参りたいと思います。

新入会員（H21.5.20～10 '30まで）

会員番号	氏名			卒業学科		卒業年次	
6236	えほしだえいじ	烏帽子田　栄治	YM	学部	法律	昭和	26
6237	まつもとやすお	松本　康男	YM	学部	政治	昭和	36
6238	いとういわお	伊東　岩男	YM	学部	法律	昭和	37
6239	たごただお	田子　忠雄	YM	学部	法律	昭和	41
6240	きしかわすけとし	岸川　資敏	YM	学部	法律	昭和	33
6241	みずたにひでは	水谷　英東	YM	学部	法律	平成	17
6242	おおしろひでみち	大城　秀道	YM	学部	法律	昭和	43
6243	かがみういわお	加賀見　岩雄	YM	学部	法律	昭和	46
6244	みつはしぎんいちろう	三橋　善一郎	LM	学部	政治	平成	4

第七回「集い」開催

一一月十三日第七回目となる「法学部在学生と卒業生との集い」をボアソナードタワー二六階にて開催いたしました。

今回の講演会は、木山俊平氏（昭和三七年三月法学部卒、元三菱鉛筆（株）相談役）に「企業からみた就職戦線」というテーマで、近年の厳しい就職状況に立ち向かう学生諸君対し、その心構え等につきお話し頂きました。

狭い会場でしたが七〇名近い参加があり、ドアの外で聴いている方もおりました。木山氏の講演は、ご自身の体験に基づくものであり、具体例をあげての判りやすいもので大好評でした。学生達への熱いメッセージも加わり、熱気に包まれた講演会でした。

午後七時半からは第二食堂へ場を移しての懇親会でしたが、講演会の聴衆の殆どがそのまま参加され、会場は大賑わいとなりました。講演者の木山氏にもご参加頂きましたので、学生からの質問があい次ぎました。その上、建設・不動産・橙法会及び不動産鑑定士橙法会所属の卒業生が多数参加されたことから、在学生も色々な先輩方と話をする機会を得て、大満足の様子でした。又、卒業生同士も名刺交換や情報交換を行う等、短時間ながら実りある会合となりました。

最後は恒例の校歌斉唱となり、学生代表の指揮で、何十歳も年の隔たった先輩・後輩同士が肩組み合って、声張り上げて歌い、感動のフィナーレとなりました。

当会としては今後とも、より多くの在学生に情報の提供を行い、希望の業種先輩と話し合う機会を作りたいと思っております。

組織委員長　柳田正義

平成二一年新司法試験の結果について

法科大学院修了者を対象とした、新司法試験の合格発表がありました。

出願者数九七三四人（受験者数七三九一人）であり、合格者数は二〇四三人でした。法政大学法科大学院の出願者数は一九〇人（受験者数一三八名）であり、合格者は二五人でした。

大学別に若干の比較を試みると、七四校のうち二位となります。

平成二一年度旧司法試験の結果について

平成二〇年度の合格者は一四四名でしたが今年の合格者は九二名でした。法政大学では一名が合格しました（昨年は三名）。受験者合格率は〇・六%の超難関でした。

広島お好み焼　くるみ
永川　清
〒162－0825　東京都新宿区神楽坂五－三〇
イセヤビル六階
電話（〇三）五二六一－二八一〇
昭和41年3月
法学部政治学科卒

ラビットコンサル鑑定事務所
不動産鑑定士　水野克己
（〇九〇）五四一・八四四〇
法学部同窓会理事、国交省・千葉県・国税庁評価員
千葉県柏市で開業中。リーズナブルで適格・素早い鑑定評価を目指します。全国どこでも評価します。

法政大学法学部同窓会
理事　大崎光雄
〒270－2203　千葉県松戸市六高台九－一－一
電話　〇四七（三八三）五〇〇三
FAX
昭和四十二年度　法学部法律学科卒

総合印刷　渡辺印刷株式会社
代表取締役社長　渡辺雅和
〒152－0001　東京都目黒区中根2－7－11
TEL 03(3718)2161（代）
FAX 03(3723)4930
E-mail:info@w-pt.co.jp
昭和四十三年度法律学科卒

法学部同窓会運営委員長
関口信之
千葉県市原市桜台四丁目十五番十九（ミサワホーム（株））

法政大学法学部同窓会
財務室長　中村眞一
〒169－0073　東京都新宿区百人町一－一三－一三　大和ビル四階
TEL 〇三（三三七〇）一七七八
FAX 〇三（三三七〇）〇七六二

一般歯科（入れ歯でお悩みの方はぜひ）
予約制
高砂デンタルクリニック
高砂文子
〒344－0067　埼玉県春日部市中央一－三－一三
東武伊勢崎線　春日部駅　徒歩三分
電話　〇四八（七六三）七二五一

不動産管理有限会社ヤマサ
監査役　山嵜正俊
電話　〇三－三三三－三三五〇
FAX　〇三－三三三－三三五〇五

法政大学法学部同窓会理事
医療法人社団敬彰会（芝公園歯科・インプラント）理事相談役
烏帽子田栄治
東京都港区芝3丁目15－5
フリーダイヤル www.joyvillage.jp
昭和26年3月　法学部法律学科卒